



東九州支部報

第105号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2024年4月25日(木)発行



令和6年度定期総会・於大分市コンパルホール(2024.4.20)

も く じ			
1. 支部活動		霞沢岳西尾根	10
支部定期総会	2	思い出の徳本峠	11
2023年から2024年	2	古典「山岳」拾い読み (No3)	12
1月月例山行 鞍岳・ツームン山	3	より安全な登山のために (No53)	13
2月月例山行 天山	4	山の事故の法的責任 (その3)	14
甲斐一郎先生追悼文	5	関西の低山を廻る	15
アップスキリング山登り	6	私の無名山ガイドブック (No92)	16
2. 個人投稿		ある問い合わせ	17
こぎこぎ倶楽部山行 八郎岳・大久保山	6	図書紹介	18
こぎこぎ倶楽部山行 場照山県境稜線	8	3. お知らせコーナー	19
こぎこぎ倶楽部山行 八重山・冠雨	9	後記	20

令和6年度支部定期総会

コロナ禍から通常の支部活動へ

令和6年度東九州支部定期総会が、4月20日(土)大分市府内町のコンパルホール視聴覚室で開催された。総会には、会員45名(うち委任状21名)が参加し、会員75名の過半数を超え、総会は成立した。会友は、12名が参加した。

開会宣言は、下川智子副支部長(14505)が行い、山岡研一会員(15674)が議長に選ばれた。議事録作成人は、河野達也会員(16600)、中野梨絵会員(16955)が選出された。

支部長挨拶は「2023年コロナ禍が終わり、通常の登山活動が出来るようになった



がまだ本来の登山活動が出来ていない。昨年度の反省と本年度の目標について、本日の総会でしっかり議論し、ますます登山をやって行こうと」述べた。

総会議案書に従って第1号議案「令和5年度事業報告、第2号議案令和5年度会計決算報告・監査報告、第3号議案令和6年度事業計画、第4号議案令和6年度会計予算案が審議され、承認された。第3号議案において、青少年体験登山大会は、最近対象となる若者の参加が少ないので登山入門教室に集約し、入門教室を充実することが承認された。研修山行は、参加費を無料とした。意見として、山岳会(支部)の在り方、リーダーの責任の有無、山においてケガや遭難は自己責任、山岳保険未加入者の支部山行は認めないこと、リーダーへのお礼の有無、登山消耗品の負担、などの多くの議論があり、閉会挨拶は鹿島正隆副支部長(11546)が行った。

総会終了後のアトラクションでは、飯田勝之顧問(10912)による、「大船山に眠るアルペン大名、中川入山(久清)公」の講演が行われた。2022年山岳(P220~237)に掲載された論文を紹介したもので、久清公の生き様や隠し鉄砲の説も紹介された。

(安東桂三記)

『2023年から2024年へ』

安東桂三(9193)

2023年はコロナ禍の終焉とともに、多くの山行が行われた。当支部においては、九州5支部集会の開催が出来、九州内の日本山岳会々員と交流が行え、次の支部へバトンが渡せた。日本山岳会にあっては、会員の高齢化、会員数の減少などの課題があり、いくつかの対策が検討された。

支部連絡会議などはZOOMにより行われるようになり、よりスピード感をもって議論するようになった。また、2月には全国33支部は、本部理事らからヒアリングを受けた。今までは、このような本部と支部の話し合いがあったとは、記憶しない。日本山岳会の会員高齢化・会員数減少には、対策が待ったなしということとを感じる。日本山岳会の財政は年々悪くなり、令和9年度には、財政問題は避けられない状況だと予想される。

このような年度初頭の巻頭言を会員の皆さまに届けるのは、気が引けるが、真実を伝えることも重要と思う。我々は日本山岳会の一支部として、出来ることは何かと考えると、東九州支部を健全に運営することと思う。支部のメンバーが自立した登山者になること、正しい登山をすること、それが、支部の繁栄に結びつき、それを見た登山者が、東九州のメンバーになりたいと思う。そのような循環を起こしたい。皆さまの協力をお願いする。

鞍岳(1117.9m)・ツームシ山(1060.6m)

1月月例山行報告

土屋美穂 (会友286)

2024年1月21日(日)曇り時々雨

月例初参加の熊本県「鞍岳」へ。昨年、日本山岳会の会友になり、初めて月例山行に参加させていただきました。行先は、熊本県の阿蘇山の外輪山、九州百名山のひとつ「鞍岳」(1,117m)。登ってみたいものの、どのように参加の意思を伝えたらよいのか? 先輩山友さんに相談し、リーダーさんに参加のメールを送り、すぐ了解の返事をいただきました。

鞍岳は、男岳と女岳の双児峰で、馬の鞍に似ているところから付けられた名前だそうです。近くには、ツームシ山、孫岳、子岳と、いくつかのピークがあり、孫岳の先には 曾孫岳もあるとのこと。今回は 孫岳までです。

ツームシとは 熊本弁で カブトムシの意味らしい。子、孫、曾孫の由来も気になります。名前だけでも とても奥が深い山です。

しかし、当日の予報は雨。中止かと思っていたところ、計画書が届き、前日の予報では、昼から天気を持ち直す?…阿蘇五岳の涅槃像の景色を期待しながら、早めに就寝。



ツームシ山の山頂で

当日は、七瀬公園に6時半集合、お天気はやっぱり悪そう。12人が3台の車で、私はリーダーさんの車に乗せて頂き出発。トイレ休憩場所である「かぶと岩展望所」で、もう一台(5人)と合流です。途中「阿蘇巨大狒犬」が…なぜこんなところに?と、こちらも気になる。

東登山口の駐車場には、既に1台あり、支度をしている間に2台、こんなお天気でも登る方がいるのかと?? あっ!!私たちが、と思いながら、9時出発。東登山口から、すぐ、丸太の階段があり、黒土の登山道は、今日は雨でかなり滑る。分岐がいくつかあるが、ところどころに、標識があり、わかりやすく、森の中や、草原など、バラエティにとんだ道中でした。ツームシ山(10:37到着)→孫岳(11:02)→鞍岳男岳(12:12)→昼食→女岳(13:06)→子岳(13:29)へ。



鞍岳山頂で

鞍岳(男岳)の山頂は、岩場で、二等三角点があり、パノラマの景色が見られる…はず。

13:47 無事 東登山口へ下山。

残念なことに、お天気は回復せず、どのピークからも ガスで、景色は見えませんでした。寒くもなく、楽しくおしゃべりしながらの初月例登山に大満足の1日でした。

ミヤマキリシマや、蕾のついた馬酔木の木がたくさんあり、春になったら、またリベンジしたいですね。

参加者…鹿島(CL)、飯田、中野(稔)、宮原、神田、佐藤(裕)、境、深草、中野(梨)、遠江、清水(道)、清水(久)、松浦、古谷、佐藤(美)、河村、土谷、以上18名

天山(1046.1m)

2月月例山行報告

河村典子(会友263)

2024年2月11日(日)晴

私の中で「天山」といえば「スキー場」である。学生の頃に修学旅行でスキーを体験した時に凄く嵌まってしまい「島根の瑞穂」、「鳥取の大山」へ夜行バスを使って友人達と足しげく通っていた。九州では「宮崎の五ヶ瀬」、「佐賀の天山」、もちろん「大分の九重森林公園スキー場」へもよく行っていた。調べてみると「天山スキー場」は「天山」の北側に長く位置しており、残念ながら2022年にコロナの影響で廃業していた。(因みに九州では「大分の九重森林公園スキー場」しか営業していないようだった。)

私は昔の懐かしい思い出と、初めての山に足を踏み入れるワクワク感で当日を迎えた。

2月11日(日)別府に6時集合し、集まった14人が各々配車された車に乗り込み、6時20分に出発。「佐賀の金立SA」で、もう一台と合流して合計18人での山行であった。

登山ルートは、《七曲峠登山口(682m)→天山(1,046m)→雨山(994m)→七曲峠登山口》ピストンで約8.7キロ、高低差≒570mの行程だった。

七曲峠登山口から西に天山山頂へ向けて出発。整備された登山道を1.4キロ程行くと樹林帯を抜



天山東峰山頂で

け見晴らしの良さそうな景観が開けてくる。しかし、この日は霞がかり(朝霧?朝靄?)あまり眺望がなかった。晴れていれば素晴らしい景色であったと思う。途中、「あれは、天山ダムや!すご

ーい」などと言っていたが、実はたくさん敷き詰められた「ソーラーパネル」の光がキラキラしていたのだ。山肌に無惨に取り付けられたパネルを見ると何だか胸が痛む。山がそこだけ怪我をしているように私には思えるからだ。

いつもの山仲間達と楽しい会話をしながら、山頂手前の東峰(1020m)に寄り道して、あっという間の天山山頂到着(11:06)。山頂は風速11~12mか?空を舞う鳥が上手く翼を使わずよろめいていた。天山山頂から約17分で「雨山」山頂到着(11:35)。ここは風もあまり無くランチタイムへ。昼食後雨山を出発し(12:28)ピストンで七曲峠登山口へ到着(15:00)。

天山の登山道には石がゴロゴロあり、その石の表面はつるつるとして、登山靴が滑る感じが



天山の山頂にて

して、とても歩きにくかった。飯田さんに聞いたところ、この石は「蛇紋岩」というらしい。蛇紋岩は多くのニッケルやマグネシウムを含み、植物の成育をしにくくし、木などが育ちにくいとか。そのためか、かえって希少な高山植物が残ったとの事。すごい!1つの事由から自然の連鎖が生まれている。「九州の尾瀬と言われる(希少な植物がある)蛇紋岩で形成される天山」。なんとも素晴らしい山ですね。



雨山山頂にて・後方は天山山頂

あと1つ。私は「やしゅぶし(夜叉五倍子)」を覚えた。1.5~2cmくらいの焦茶色の果穂(かすい)がたくさんついている木だ。黄緑色の若い果穂が枝の先端にたくさんある中に焦茶色の年若い果穂がいくつも可愛くついている。とっても親近感があった。

私はどの山へ行った時も、皆さんからたくさん
の知識を頂いている。地理の知識、雑学、歴史、

料理、生活の知恵、人生論などのお話は私の生きる糧となっている。(2024. 2. 11)

参加者…鹿島(CL)、飯田、神田、深草、遠江、柳瀬、清水(道)、清水(久)、松浦、古谷(耕)、平原(瑞)、古谷(あ)、青木、河村、土谷、河野(浩)、井口、高橋、以上18名

甲斐一郎先生(会員番号10793 1927~2024)を偲んで

大分県山岳連盟元会長 首藤宏史(JAC会員番号 8595)

甲斐一郎先生は、大分師範学校在学当時から登山を始められ、80年程になります。私がお付き合いをさせていただいたのは、昭和41年大分県で開催された国体山岳部門の準備に取りかかった昭和36年頃だったと思います。当時の交通手段は国鉄、路線バスと徒歩でしたが、先生は当時としては珍しく自家用車でした。国体では輸送部門の担当をされていました。

甲斐先生は昭和42年から県山岳連盟常任理事、46年から理事長4年、50年から副会長5年、55年から参与を務められ、県山岳連盟の発展に尽力されました。先生が理事長時、私が総務担当常任理事で、一般県体の登山部門の得点競技化、県民登山教室の開始、祖母・傾の原生林(自然林)伐採中止の取り組みや黒岳の原生林の保護運動、くじゅうや祖母・傾山系、由布岳を中心にした山の清掃作業など、自然保護活動に取り組んだことが思い出されます。

昭和48年春、梅木秀徳さんが肥後街道(熊本城~鶴崎)を正味五日間で歩くことを計画、甲斐先生、私外4名が参加しました。テント泊で、野菜は野草を食べ、経費をできるだけ切り詰めるということで出発、2泊目までは良かったのですが、3日目から雨に見舞われ、お寺や個人宅に宿泊をお世話になるなど大変でした。それでも何とか予定の日数で歩くことが出来ました。

昭和56年、大分県山岳連盟チベットヒマラヤ登山隊がポーロン・リを目指して準備を始めた折、先生のビル2階を事務所兼準備室としてお借りしました。また同年に甲斐先生と鷲司慶雄、城内泰司氏の3人がチベットのベースキャンプまで偵察に行きました。57年4月、伊東亨隊長、梅木秀徳副隊長、安東桂三隊員ら登山隊が出発、5月になって安東隊員ら4名が第1次登頂隊として、7280mの東峰を通過し、頂上まで150mの手前まで登りましたが、強風のため登頂を断念、後第2次登頂隊江藤幸夫、和田実隊員の2名が7292mの登頂に成功しました。しかし下山中和田隊員が滑落行方不明となり、栄光と悲しみの登山となりました。

平成9年、甲斐先生、私外3名でボルネオ島マレーシア領サバ州のキナバル山(4095m)に登りました。第1日は登山口から約3300m地点にある、ラバンラタの宿泊所に宿泊、翌早朝に出発し、最高峰ローズピークに登頂、昼前にラバンラタに下り泊、午後は大雨で岩間に大滝が現れました。翌日下山。キナバル山は花崗岩の山で、通常午前中は大体晴れですが、午後は雲がかかり雨となります。

長い間山に関わる活動をされ、登山界の発展に寄与された甲斐一郎先生、心からご冥福をお祈りいたします。

(甲斐一郎会員は去る3月2日に他界されました。合掌)



写真・90歳で久住登山の甲斐先生
(2019. 11. 1)

アップスキング山登り

(2024年度研修山行)

安東 桂三 (9193)

正しい山登りを目指す 第一回 3月29日(金)
戸塚山(294,6)、270mピーク、広内地区の低山

2024年度の研修山行は短期講習とし、テーマを絞って、そのテーマにあった研修を3~4回程度で行い、それを繰り返すことで、成果をあげると考えた。最初の3回のテーマは、『正しい山登りを目指す』とした。

まずは山岳遭難事故の一番の原因、道迷いを防ぐ。



そのためにはしっかりと読図を覚える。大分市南東部の低山を歩くことで、しっかり地図を読む習慣をつけようと考えた。多くの山岳情報サイトに掲載されないルート、未知のルートを歩き、常に現在地はどこかを考え、地図上の破線ルート(国土地理院では徒歩道)を忠実に歩いた。当日のルートは別紙。

佐野植物公園に集合したのち、県道21号線の広内地区近くの路肩駐車スペースへ移動。地図を参

照しながら広内地区北端の林道を歩き、広内地区佐野地区の分水嶺鞍部を目指した。鞍部より川沿いの実線路を下り、最初の課題の破線路から戸塚山を目指した。山頂近くには『丹生村有地』の古い石柱を見つけ、戸塚山の頂手前にて横堀をニヶ所、確認した。参加者の後藤さんの山城説明があり、また山頂北西面斜面には切岸が確認出来た。山頂にて昼食後北西尾根を下り、海崎線の鉄塔に下りつき、巡視路を標高140m付近から、戸塚山西斜面をトラバースして出発点に戻った。

また鞍部より少し下り、北面の稜線に登り上がった。その途中には、『無情庵』と書かれた山小屋があった。高圧線を確認し、稜線を登ると標高270mの標高点に上がった。標高石などはないが、全員で、此处が270mピークだと確認した。またここにも『丹生村有地』の古い石柱があった。あとは西稜線を進み、NTTアンテナからは作業道を下り、路肩駐車スペースに戻った。少し反省し、次回の霊山は本日より50%レベルアップと予告し、解散した。

国土地理院地形図 1/25000 図：鶴崎

参加者…中野(稔)、後藤(英)、佐藤(美)、上野、山田、荒巻



個人投稿

こぎこぎ倶楽部山行

長崎の天測点のある八郎岳と大久保山の子午線標

古谷 耕造 (会友191)

令和6年1月13日(土)~14日(日)

総勢14名のうち2名日帰り。(1泊2日)

午前5:30 分別府湾サービスエリアに合流集合。

私は諸田さんと市内で合流し集合場所に向かう。今回の山行の目的は長崎市最高峰九州百名山で天測点のある一等三角点の八郎岳と大久保山にあるその子午線標探訪がメインテーマであった。

大分道~長崎道~長崎環状線を走行、戸町ICで下車し女神大橋近くの駐車場に駐車して大久保山登山口へ向かった。

登山口はすぐにあった。8:40 分出発。道路側の小さなコンクリートの階段を上がり詰めて一歩一歩前進。登山道とは程遠く自生した雑草やバラのトゲが多数散乱していた。足元に気を付けながら緩やかな傾斜を登って行くと やがて登山道も明瞭になり杉、桧の植林地帯となる。時折太陽が照らし木洩れ日を浴びながら尾根上のやや下方の歩きやすい道を選んで行くと三等三角点の大久保山頂(233.8m)に着いた。

山頂は展望もなくモウソウ竹と照葉樹に囲まれていた。山頂で集合写真を撮って奥へ進んで行くと 先頭の方から大きな歓声があがり私達が目指していた子午線標を発見した。三角点か



大久保山山頂の八郎岳の子午線標を囲んで

ら50m程先のヤブの中であるが、みんな感動の余韻に浸たる。

集合写真を撮り子午線標をあとにする。下山は台場跡への道を降りて展望台で景色を楽しんだ後、車道を20分あまり歩いて駐車場に戻り、そこで弁当を食べて八郎岳へ向かう。

八郎岳の登山口は竿浦の鳥居の奥からで、13:55 スタート。登山道は整備されていて途中には長崎弁を使ったユニークな指標があり縦木山を連想させた。登って行くと登山道脇に水晶石に近い石が転がっていて、みんな興味深く眺めていると「その石私が持って帰るから！」と叫ぶNさん(一同爆笑)。この石は火打ち石にもなるとの事で早速Mさんが実演したところ見事火柱が出た。みんな拍手喝采。雑談を交えながら登って行くとやがて八郎岳の山頂(589,8m)一等三角点についた。

山頂は360度の大自然。この日は天気にも恵まれて視界を遮る木々もなく大展望であった。眼下には長崎湾、三菱造船所、長崎市内

が見渡せ 遠くは五島列島も見えた。最高の展望である。

山頂を満喫し、天測点に触り集合写真を撮ったあと下山をした。途中の分岐で飯田さんの指示で道の悪い往路には運転手4名だけ下り、皆は道の良い平山方面へと下った。

16:00 墓地の下の平山登山口に車は4台待っ



八郎岳山頂で

ていた。ここで中野夫妻が日帰りのためお別れして、ホテルへ向かう。今宵の宿は眺めの良い『にっしょうかんホテル』で、美しい夜景を楽しんで、バイキング料理だ。ビールで乾杯して1日目の山行は終了となる。

2日目は西彼杵半島の最高峰長浦岳と飯盛山だ。ホテルを8:00に出発し国道206号を走り赤水公園駐車場に9:45分到着。高度差50mの登山だ。杉や桧などの植林地の中の荒れ道が山腹を巻いていき、緩く登れば長浦岳(560.8m)の山頂だ。10:15分、一等三角点があるが展望は全くない。

下山後、駐車場横のみらし山という丘に登った。展望台があり半島の山々が見渡せた。ここは563mで長浦岳よりちょっと高いが指標がない。そのあと飯盛山へ向かい、登り口の獣避けのゲートの上の道端で日向ぼっこしながら弁当。そうして登山開始は12:50。

登り始めると荒れた空き地に牛か馬の堆肥置き場がありその奥に墓があって、道はそこまでだった。先頭に行く諸田さんがやぶこぎ、蜘蛛の巣に悪戦苦闘して飯盛山(530.7m)山頂(三等三角点)に着いた。山頂はうっそうとしていた。下山していると馬糞を積んだ軽トラックが上ってきて、ちょっと怖そうな顔のおじさん「あんた達の車か? 大分から来たのか?」飯盛山に登ったことを言うと、意外と優しく話し好

きな人で「この山は今は誰も登る人はいない」語りかけてきた。

14時過ぎ下山する。帰りは佐世保経由で西九州道・長崎道、大分道を通り 別府湾サービスエリアに17時過ぎ到着でここで解散。参加者の皆様には大変お世話になりました。

充実した幸福な2日間を過ごせました。飯田さん大変ありがとうございました。
参加者…飯田、中野(稔)、桜井、宮原、今川、神田、境、中野(梨)、柳瀬、清水(道)、清水(久)、古谷(耕)、榎園、諸田

こぎこぎ倶楽部山行

場照山付近の県境稜線踏査

榎園清美 (会友238)

2月18日(日)

午前7時、佐伯市運動公園駐車場集合～黒沢ダムへ移動後車の数を絞って石神越へ移動。途中の鳴水谷林道分岐に車をデポ～石神越～木和田三角点～576m独標～途中で昼食～場照山～鳴水谷分岐～石神越の車を回収～黒沢ダムで解散(以上行程の概要)

黒沢ダムを車4台で出発。ダムから奥の播磨谷林道は荒れており、途中の大きな石を除けながらの運転であったが、皆さんの気持ちが前進！石除けに表れていた。石神越を午前8時に出発。峠の掘割からフェンスを巻いて何とか登れそうな場所を探し、そこからいつものように地図を見ながら



木和田三角点山頂にて

進んでいくと、木和田三角点にたどりつく。時刻

は9時前だった。じっと見ていると色々なことが書かれている。

さあ次は576m、ここからだ。その少し先でちょっと尾根を間違えて引き返して修正したり、だんだんと道なき道を進む。先頭の二人が後続のために道を切り開きながら進んで行って下さる。有り難い！途中で大きなクスノキの巨木に出会う。人の手で何人につなげるだろうかと、笑いながらやってみると四人でつなげた。もっと人の手がいるかと思いきや、4人で終わるとは……。何かパワーをもらえるといいと思いながら前に進む。ヤブをかき分けながら進んでいると、何やらいい香りのする木の实があった。

10時50分過ぎに576m独標を通過。直角に左に曲がって登って行くと、左側が見晴らしの良い所に着く。左前方に場照山が見え、目の前には宮崎側の山々が広がって、左手の県境稜線の向こうに蒲江の屋形島などが見える。時刻はまだ11時10分過ぎだがここで景色を眺めながらの昼食となった。暖かく気持ちの良い場所での昼食は何とも言えない。景色も良く、ほっとする瞬間でもあった。側を見るともうアセビが遠慮そうに咲いている。日当たりの良好な場所なので早いのだろうか。

さあ腰を上げ、場照山山頂を目指そう。道なき道をナタで切り開きながら進んでいくので、やはりこれはこぎこぎではなく、ヤブこぎでもなく、ヤブ切りだと全員笑顔。こういった稜線歩きもなかなかのものである。13時過ぎ場照山到着だ。一度登ったことがあるにもかかわらず余り覚えていない。山並みを確認しながら、リーダーが遠くに見える津島畑山やその右手の、宮崎県の飯塚



場照山山頂にて

山、岳山などの説明を聞く。ちょうど深島から帰ってくる定期船が屋形島に入ろうとしていた。蒲江と屋形島、深島を結ぶ定期船は一日3便ある、

深島には昔は小・中学校もあったが、今は人口が20人にも満たないというお話。淋しくなります。ここでリーダが「いいねえ、あったかいねえ、あったかいねえ・・・」その声を聴いて私ども気持ちにはがホッカリ、まさにあったかいねえでした。

さて場照山から下山は、運転して下さる方々は、急いで先に下りて頂く。後方はゆっくりと、急な道であっても登山道なので歩き易い。鳴水谷林道まで下るとあとは林道歩きでいっそう歩き易いが、結構時間がかかる道のりを数人で和気あいあいと歩いていると、そばにコショウの花が咲いている。カメラを向けてシャッターを切る。お花が何とも可愛い。

鳴水林道分岐には石神越から車を回収してきた運転者さんたちが待っていました。14時30分過ぎ、黒沢ダムで解散。計画して下さったかた、先頭でリードして下さい下さった方、ヤブのこぎ切りして下さい下さったお二人さん、本当にありがとうございました。

参加者…飯田、鹿島、宮原、今川、佐藤(裕)、境、柳瀬、清水(道)、清水(久)、古谷、榎園、佐藤(美)、井村

(ヒヤリハット)途中、北熊本と桜島のSAでトイレ休憩などして、10時20分西保町の八重山子午線標入口に到着。雨である。

10時40分探索開始を始めるが入口が分からず探していた時、先発隊が上でルート工作していた時、下で待っていた我々の前に、直径15cm長さ6~7m程の枯れたモウソウ竹が滑り落ちてきた、当たれば大怪我であった。登山時は上に居る者も下に居る者も要注意である。

高度差40m、距離150mだが、雨の中のヤブこぎ20数分、11時10分小ピークの北側斜面に子午線標発見。写真を撮って下山し、11時50分、次の八重山に向かって出発。



八重山の子午線標を囲んで

登る前に昼食をと、場所を探していたら登山口下のキャンプ場にある交流促進センター「てんがら館」の御好意で室内で昼食ができ、雨が降っていたので大変助かった。

13時八重山登山口を出発。絶え間なく降り続く雨の中、緩いアップダウンの続く長い道のりである。13時40分三角点(676.8m)に着く。八角形の天測点がそこから少し南に離れた木立の中にあつた。まずは皆で写真。そのあと少し行った先にあるという山頂へ行く。平坦な山頂で高さ

こぎこぎ倶楽部山行

鹿児島天測点のある八重山と子午線標の探索山行

櫻井依里(15463)

令和6年3月23日~24日にかけて鹿児島県の八重山天測点の子午線標探索と山遊びの山行報告。

(先行き不安な出発)23日5時別府湾サービスエリアにこぎこぎ倶楽部の16名が集合予定であったが、1名はETCの装着がなくSA入れない事態になって、遅れて合流するし、1台(3名)が集合場所を過ぎて由布院PAで待つことに(弥次喜多道中を感じさせる)なるも何とか出発。

大分道の日田あたりから雨がポツポツ降ってきた九州道に入るとトラックだらけの高速道となった。



八重山の天側点を囲んで

は変わらないが、木立が伐られていて広い展望が得られるようになってきているが、雨霧で視界が悪く14時50分、早々に下山開始。15時登山口に着く。

(ご褒美) お楽しみの諏訪温泉に向かう。諏訪温泉は泉質が良いことで有名であるが、あいにくと、給湯ポンプ故障の修理中とのことで、近くの市営温泉施設「湯の山館」の入湯券をもらって入浴した。それでも温泉質の良さを実感する。

夜食は深草さんの差入の知恵美人を堪能。2次会は飲んだことのない「電気ブラン」を飯田さんが用意して頂いており、じっくりと味わえた。

(九州百名山) 24日は折角鹿児島島に来たんだから雨ではあるが九州百名山の冠岳(516.3m)に登ることになった。7時40分宿を出発、当初の予定は徐副蔵から登る計画であったが、降りしきる雨の中、山頂下の駐車場からの最短距離で登ることとした。

20分余りで登る階段道だが、足場が悪く。9時過ぎに山頂に到着したものの視界ゼロ、記念写真を撮って早々に下山だ。



冠岳山頂の社の前で

9時40分登山口駐車場から次の予定地、蘭牟田池(ラムサール条約登録湿地)へ向けて出発。10時50分、池のほとりの「生態系保存資料館・アクアタイム」という建物の前の駐車場に到着。横にはちょうどいい具合に、椅子とテーブルの揃った大きな東屋がある。時刻はまだ早いがここでランチタイムとした。壁がないので時おり雨風が吹き抜けるが何も無いよりいい。

昼食をすますと二つに分かれて行動開始。1班11名は湖畔の片城山(508.7m)に登り2班は自由に蘭牟田池を探索した。周囲約4kmの蘭牟田池はラムサール条約に登録され、その泥炭植物群落は天然記念物にも指定されている。雨に

かすむ幾つもの浮島と、蘭草の湿地の風情は素晴らしい。

登山組も帰ってきて、全員揃ったところで午後1時、そこで解散として各々の車で帰途につく。

(感謝と感心) 兎に角、リーダー飯田さんの体力・知力・指導力に関心させられる。又清水さんの会計にてスムーズに進行、そして皆さんの人柄にて楽しく山遊びができたことに感謝でした。
参加者…飯田、櫻井、宮原、今川、神田、境、佐藤(裕)、深草、遠江、柳瀬、古谷(耕)、清水(道)・清水(久)、松浦、佐藤(美)、諸田

個人山行報告 霞沢岳西尾根

橋本 桂 (A-0488)

山岳会に入会して、しばらく眠っていた母のピッケルを使うようになった。シモンのピッケルだ。昔ながらのストレートのもの。最新のモデルはシャフトがカーブしてカッコよく、母のピッケルは素人ながらも少し古いものだと感じていた。だけど、かつて母がこのピッケルを頼りに雪山を歩いた。私にとっては特別なもの。まずはこのピッケルで雪山を歩いてみたい。そんな気持ちで雪山に付き合ってもらった。

今回、挑戦するのは霞沢岳西尾根。メンバーは安東さん、上野さん、生野さん、私。一昨年に山岳会に入会してから2回の伯耆大山に続き、3回目の積雪期登山だ。

(行程)

2/22 大分～

2/23 ～坂巻温泉—釜トンネル—上高地トンネル—太兵衛平—霞沢岳西尾根—西尾根取り付きテント設営

2/24 BC—霞沢岳(2645.8m)—BC撤収—坂巻温泉

2/25 ～大分へ

事前に霞沢岳西尾根を調べると、冬季限定のバリエーションルートとあり、聞いただけでもワクワクするルートだった。積雪期アルパインクライミングにおける入門コース。核心部において、懸垂下降が必要で登攀具やロープも準備する必要がある

あった。晴れた日には、御嶽山、乗鞍岳を見渡せる素晴らしい山とあり、期待は膨らんだ。

霞沢岳西尾根は始めから急登が続き、場所によってはピックを刺しながら、ダガーポジションで登攀する場所も多かった。山頂下の核心部ではフィックスロープが三本張ってあり、登りでは、ロープを出す事なく通過することができた。積雪期における山は思った以上に体力の消耗が激しく、日頃のトレーニング不足を感じた。山頂付近では、高山病における軽い眩暈を感じながらだったが、皆さんの励ましもあり、どうにか登頂することができた。

快晴に恵まれて、山頂からは御嶽山・穂高連峰…が見渡せた。青い空に輝く白銀の世界は、それはそれは素晴らしかった。頑張りが報われたようで胸がいっぱいになった。

下山は持参した30メートルロープで懸垂下降を行った。冬季限定という人気のルートに加え、快晴という好条件も重なり、思った以上の混雑であった。そのため、核心部の離合も困難を極め、懸垂下降には緊張を強いられた。メンバーが声を掛け合い、日頃培ったチームワークで安全に懸垂下降を行うことができた。

昨年末、アイゼントレーニングのために安東さんと笠井さんと高崎山、大谷沢に行った。大谷沢の急登でピッケルを上手く使いこなせていない私に、



笠井さんから「桂さん！そこでピッケルを刺すのよ！」という言葉をかけられた。霞沢岳の急登を登りながら、笠井さんの言葉を頭の中で反芻し、繰り返し雪にピッケルを刺しながら山頂を目指した。大谷沢でのアイゼントレーニングを霞沢岳西尾根で活かす事ができた。

今回、霞沢岳で貴重な経験をさせていただいた。慣れない雪歩きを、母のピッケルがサポート



してくれた。道具は使いこなしてこそ。それぞれの道具の持つ意味をきちんと理解して、道具に見合う人間になりたい。

個人山行報告 『思い入れの徳本峠を訪ねて』

加藤英彦 (8765)

—2023年8月25日—

日本山岳景観の最高のものとされていた。その不意打ちに驚かない人はいなかった。

—深田久弥 記—

徳本峠から穂高岳への展望は日本百名山の著者、深田久弥によると「日本山岳景観の最高のもの」と表現されている。

そのように書きあらわされている峠へ一度は登ってみたいという望みを持ちながら、その景観をこの目で確かめてみたいという期待感を抱きながら、今回の徳本峠への訪問はあっけなく好天のもと達成された。

朝7時、上高地のJAC 宿泊施設「山研」を出発した一行6名は朝の張りつめた空気の中、梓川添いの右岸の道をゆっくりと木道を登っていった。北アルプスは初めてだと言う2名は何もかも新鮮に感じているだろう。

川沿いのネコヤナギの枝も見るも初めての物だ。ゆっくりと歩を進めながらも立ち止まっては写真を撮っている。清い流れをみながら、梓川沿いの土手を登っていく。やがて1時間も登ると本日の宿、嘉

門次小屋の前へと出る。早い時間だが小屋へ寄り夜の宿泊を伝え、荷物を預かってもらうことにする。

サブザックに行動食、水、雨具を移し、軽くなった荷物をしょって、明神橋を渡り明神館へ。上高地からの人通りの多い道を左手、徳沢方面へととる。すぐに沢を渡ると大きな指導標が右へ徳本峠への分岐へと導く。ここからは支沢沿いのルートとなるが徳沢園への人の多い喧騒な雰囲気と違って静かでゆっくりとした登りへのルートとなる。左からの沢を渡る木道の橋もあり徐々に登っていく。右手に涸れ沢をながめながらジグザクの登りとなる。今度の沢は少し水が多い。すぐに木製のハシゴを直登する登りとなる。ゆっくりと休憩をとりながら森林地帯を上へ上へと登って行く。地図を確かめながら右上への分岐をすぎてから最後の登りとなる。振り返ると林間に前方の穂高の稜線が見え隠れしてくる。最後あっ気なく峠の広場へと登りつく。そこから眺める



西穂高の稜線が素晴らしい。これが深田のいう日本山岳景観の最高のながめであろう。島々宿から延々と長い時間をかけて登ってきてたどり着いた峠からみたその稜線はなんとも素晴らしいものに見えたのだろう。我々は明神より3時間弱かけてたどりついた峠であった。

峠には古びた「峠の宿 徳本小屋」の看板のある山小屋があり、往時の姿をそのままたずむ姿は歴史を感じさせるものがあった。

1891年英国人ウェストンがこの峠に立ち、穂高や槍への登山を始めたのが日本アルピニズムの発祥と言われ、近代登山の夜明けは、この峠から始まったとも言われる由緒ある峠の訪問もこうして上高地側からはあっ気なく達成された。

この景観を眺めそれが最高のものと納得をして長年の希望が達成された、満足した気分で峠をあとにした。

メンバー…境、加藤、土屋、工藤、高橋、土谷

JAC 古典「山岳」拾い読み No3 九州の二高山

飯田 勝之(10912)

今回は山岳の第二年第二号(明治40年11月1日発行)に記載されている工学士MT生の「九州の二高山」を紹介しよう。

豊後鶴見岳

「菡萏湾(別府湾)の西に、巨人の如く並び立つ二つの火山がある。左なるは豊後富士の雅稱ある由布岳(五二二六尺)、右なるは鶴見岳(四五三六尺)である。山陽線路の凡山、否な凡丘に悩まされ、初めて九州に渡った、吾輩は国東半島の二子火山を望んで多少元気を回復したが、此處に来つて漸く溜飲の下る心地がした。別府の温泉地では由布岳は見えぬから、鶴見岳許りが唯我獨尊に天地を睥睨している。其形は由布岳の端正なのに較べものにならぬが、先ず出来の悪い截頭圓錐で其右側には頂上から麓まで割った様な縦谷が見える。別府から距離も近く、如何にも眺望のよさそうな山なので急に登って見たくなり、温泉場から出かけたのが十二月一日の午前九時半であった」で始まる。弁当持ち兼ガイドの人夫一名と出発。観海寺温泉の下を通り堀田温泉を経て谷間の道を登る。

「遂に鶴見岳の東南麓の峠(一九四七尺)に達する、粗末ながら休茶屋があって、中食位はできる、別府から此處まで二時間かかり、十一時四十分となった。是から愈々本山と成るのである。」鳥居登山口から登りはじめ、後方に志高湖などを眺めながら登っている。

「八町行くと鶴見岳神社がある。此邊可也樹木が繁って神社は石段の幾回も登った奥にある、境内は幽邃ながら餘程荒廢の状態であった、・・・暫くの間は樹木があるが、やがて頂上まで枯ススキの多い一面の草山と成り、此邊から始めて由布岳が隣りに近く見える、其の頂には多少凸凹があるが、秀絶な富士形で頗る美しい。」現在の林道を横断したあとのあたりであろうが、今は植林地のこの辺りから上は一面の草原と書いている。

「枯ススキは身長より高く、道もほとんど分らない、只だ頂上を右前に見て登って行く・・・、峠から一時間許で頂上と、其の西南

にある小支峰との間の、峠状の處に達して此處から頂上を目掛けて路のない草中を攀じ登った。傾斜は非常に急で、手がかりになるのは枯ススキ許り、時々今にも轉落しさうな巨岩に遮られて、避けて通るに困難しながら、三十分で絶頂に達した。時に一時五十五分、別府から四時間二十分で目的地に到達するを得た。」

峠状の處とは南平台との鞍部のことか？、現在の登山道とは全く違った所をやぶ漕ぎで登っているが、それにしても速いペースである。

「北は殆ど絶壁的な大急斜で、此側面は山頂及び他と違って樹木が繁っている。頂上には石を積み上げて石龕が二つ

ある、祭神は炎権現と云ふものだそう、三等三角測量標の石がある

・・・眺望は絶佳である、先ず北の方は中津平野、二子山等があって、遠く周防灘を隔てて、長州の山が見え、・・・、佐賀の関と相對してお横たはる岬角

四国の佐田岬だと云ふ・・・、西南にある稍々高い山群を尋ねると案内は阿蘇だと答えた、然しどうも阿蘇らしくないので念を押すと久住山だろうと云ひ直した、・・・下山には登った急斜の危険を慮つて、尾根づたいに西を指して下り、夫から左に轉じて、以前の峠状の處に出た・・・別府に戻ってのは、早や黄昏の六時頃であった」とある。

地質学専攻の理学博士松田繁氏が別府温泉を訪れた時の山行記で、博士はその後阿蘇に足を延ばしている。

阿蘇山瞥見記

十一月十日遅く、熊本市を出て馬車で大津を経て戸下温泉に一泊して、「元来此處は温泉はなく、五六町離れた栃ノ木温泉から引いて来る」と書いている。

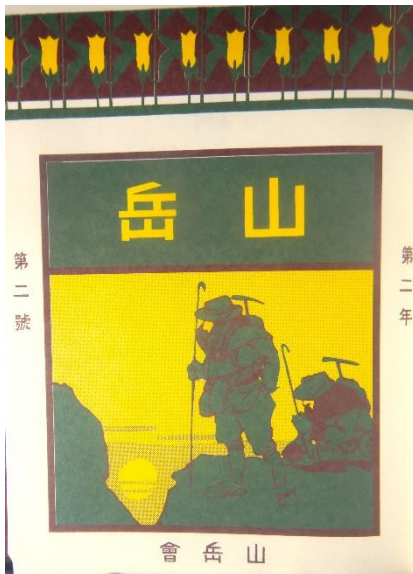
「十一日朝八時、戸下を出て、高森街道を取り栃ノ木温泉を右手の河原に眺め、鮎返り瀧を見て」と登って行く、「長野村を通る、前面に烏帽子岳が

三角形、其左に丸い頭を出しているのは杵島だけ・・・」「今我が後には、俵山から南北に連なった外輪山脈が多大の高低もなく、極めて面白く環状を成して繞つてゐる。其奇異なる地形には、いかなる不注意者でも必ず気が付く、箱根の外輪山は、一寸分難いが此は頗る鮮かだ」垂玉温泉を九時四十分に通過し、烏帽子岳と御竈戸山の間の峠に十時十分に達している。「此處から待ち焦がれた中岳火口壁を初めて望むことが出来た」とある。「阿蘇神社に達したのが十一時三十五分で、戸下から三時間半の距離である」かなり速足である。

「晝餐をすまして火口へ向かった。東北を指して最近距、登れば容易く火口壁、火口壁の側面をめぐる・・・二十分ほどで新火口に近づいた。新火口は中央火口壁南斜面にある、・・・杖をつきたてて辛ふじて近寄り、先ず西の方から窺ひ見るに、孔は長方形を成して東西に狭く南北に長く、幅一間餘、長さ二間位と見えだが、廣き場所にある故、過小に失したかもしれぬ、深さはわからぬ、今は水蒸気と硫黄瓦斯とを盛んに出してゐる・・・要するに此新火口なるものは中岳の奇食的小孔で、火口と呼ぶのも實に烏澁がましく、恐く其運命の持続さへも疑問であらう」とある。

このあと氏は中央火口を廻って草千里へと下っているが、地質学者らしくあ行のことなど書いているが中略、「歸りは湯之谷道を取り烏帽子、杵島二岳の間に至ると千里ヶ濱と云ふ広い原がある、新火口のある處も千里ヶ濱と云ふそうで、烏帽子の方が古千里ヶ濱、火口のある方を新千里ヶ濱だと教えてくれた」とある。

「余は熊本市で阿蘇山のことを記した書物を索目してみたが、「阿蘇登山」と云ふ少年向けの小冊子の外、何も見當らなかつた。登山要路の此大都會に一案内記の出版なきは熊本人士の阿蘇山に對する冷淡さが思ひやられて、失望した。之も山岳趣味の未だ普及されぬ為であろう」と結んでいる。



より安全な登山のために No.53
『IT時代の山岳遭難』
 安東桂三 (9193)

今から40年近く前にワープロという文明に接し、当時20万円くらいのワードプロセッサを

購入した。そのワープロではブラインドタッチ出来るようになり、上司の喋ることを口述筆記出来るまでになった。それと同時に漢字は読めるが、その漢字をペンで書くことが出来なくなった。漢字を忘れてしまったようだ。また携帯電話の黎明期、PHSというものがあつた。その導入とともに覚えていた電話番号を忘れてしまった。そして車においてはカーナビというサービスが始まって、道を覚えるという能力も失ってしまった。

そもそも人間をアシストするために、AI(人工知能)が開発され、それを使ってITが伸びてきたが、人間はITを使うことを習熟し、ITにたけよとなつてしまったようだ。

現在では登山でも同じように、登山用アプリを利用することが多いように思う。登山用アプリを利用すると安全登山が出来るようになると思うが、遭難件数は毎年前年度を上回る状況が続いている。登山者が増えているならば、それも理解できるが、日本における登山者数は2009年の1230万人をピークとして減少し、コロナ前の2019年には650万人までに減少し、コロナ禍の2020年には460万人となった。

コロナ禍も終わり、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に昨年5月になったが、コロナ禍前に戻ったとしても、過去の登山者の多い時期に比べてはるかに少ない。登山用アプリを使い登山者数が昔に比べて少ないのに遭難件数が多いのは、根本的な問題が隠れているように思う。

多くの隠れた問題があると思うが、今回ITに的を絞って考えたいと思う。登山者が減つたと言われているが、見た目には山に多くの登山者があふれている。かつての登山者は山岳会に所属していて、町には多くの山岳会が存在した時期があつた。ところが現在では多くの登山者は山岳会を辞め、かつ新たな登山者は山岳会に所属しない。それで多くの山岳会は存続難しく休会や廃会となつてしまった。

新たな登山者は手に手にスマホと言われる携帯電話を持ち、それを参考にしながら登山をしている。いくつかの登山用アプリに掲載された登山道、他の登山者の報告したルートを辿り、それを頼りに登る。

私が巻頭に述べたように漢字を忘れ、電話番号を忘れ、道路を覚えることを忘れることと同じく、登山力の低下を引き起こしている。これに気がつけば決策は見つかると思う。いろいろなIT機器があり、

山に楽に登れるようになって山への厳しさは変わらない。人間力を上げ、IT機器の助けを借りれば、もっとレベルの高い登山が出来るようになると思う。

最近登山届(登山計画書)をアプリで入力出来るソフトもある。これも便利なツールで、入力した届は提携されていれば該当する地域の警察署へ送信される。登山口や入山日や個人情報、目的地などを入力するだけで作られる。ただ登山届の本来の意味は、その山を詳しく研究するという意義もあるが、それを簡略しているのだから、いざとなれば登山者は研究不足から、思わぬアクシデントに遭う可能性がある。

簡単に得られる知識は、簡単に忘れてしまう。と同様に簡単に作った届は簡単にボロが出てしまう。何事もしっかり研究し登山することが重要と思う。ただその便利なソフトを使わない手はないので、登山用ソフトには限界があることを知って、使うようにすればよい。

ヤマケイ新書に「IT時代の山岳遭難」木本康晴著があるが、参考になるので是非一読を。特に登山アプリを使われる登山者にはお薦め。何事も素早く行動を起こしたい登山者ほど一読を勧めます。時間が取れない人には第1章、第4章だけでも。

山の事故の法的責任(その3)

山岳事故の法的責任(解説)

安部可人(会友)

学校登山 教師の安全確保義務あり、学校行事としての登山と山岳部の活動としての登山がある、高校では登山部という。

新田次郎の『聖職の碑』は映画化された。ある高等小学校が、集団登山を中央アルプスで実施した。暴風の為参加者の37人中11名が死亡した。雨具は、ゴザをまとう原始的な装備では生きられない。全てが、明らかに引率教師の注意義務違反である。西穂高高校集団登山での落雷事故では、55人中11名が死亡した。引率者が、雷雲の接近を判断できなかったのか、集団行動では逃げられない。お粗末だという感想です。

(1)由布川溪谷の事故 某教師が、担任の生徒を日曜日引率(業務外)して、由布川溪谷クラスハイクで便意を催した男子生徒が、溪谷に落ちて死亡

した。当時騒ぎ立てた記憶がない。この生徒が縁側に来て、おいでと手招きする夢らしき(夢枕)を忘れない。係としてある件で厳しく指導したから会いに来たのだ。

(2) 高校登山大会で某校の男子部員が風穴近くで間もなく死亡した。若い未熟な顧問が持病を知って参加させていたら、**安全確保義務違反**に該当する。親は訴えず、マスコミも大騒ぎした記憶がない。古きよき時代だ。

(3) 祖母山教育キャンプ登山 昔はどの高校も教育キャンプを実施した。登山部の顧問(安部)が計画した。尾平宿舎から、祖母山往復はやや無謀だったか、と反省する。宮原分岐で迷いこまないうようにと、しっかり**注意義務**をはたした。距離がある、はしご場で時間を食う、夕立の恐れがあった。引率の先生8名が、200名もの大集団を引率した(どの学校もそうするしかなかった)。留守番の山岳部顧問佐藤雅司先生(府内山岳会・故人)が、黒金尾根を降りた溪流にロープを張ってくれていた。さすが、ベテランの配慮でした。これが**注意義務**だ。

(本文より、**引率登山**)「昔はよほど重大な落ち度がない限り不起訴が多かった」例の行方不明、無事救出された上浦の女子中学生の道迷いは、初心者であり、難しい祖母山は無謀といえよう。「**教師は参加者の安全を確保すべき注意義務を負う**」この学校の教師は、義務を果たしていない。(賠償)

「**公立学校の教師に過失がある場合には、国家賠償法に基づいて国や自治体が損害賠償責任を負い、原則として教師個人には賠償責任を負わない**」竹田高校剣道部員の死亡事故の裁判は依然として終わらない。教育委員会も裁判所も遺族の悲しみを大きくとらえて解決終結してほしい。舞鶴高校ラグビー部員同士が柔道してふざけていたら、頸椎損傷の相手が死亡した悲しい事故がある。(ことわざ) **accidents will happen**、この場合 **will** には特別の意味がある。事故は不可抗力と強調している。事故はどうしても起こるものだ。

(追記) 立山に文部省登山研修所があり、分厚い学校登山の手引書を入手した。祖母山引率のとき、教師の引率責任を読んでいた。

関西の低山を廻る

佐藤裕之(16315)

物見遊山のようなものだが、報告する。

2月23日(金)

先山(448m)

先山は国づくり神話上、我が国で最初にできた山とされ、頂上には千光院という古刹がある。「古事記」では、イザナギ、イザナミが淡路島をまず作ったとの記述はあるが、先山については記述がない。参拝も含め2時間で十分登れる。

笠山(476m)

笠山に天測点を見に行く。多少の数はあるが、比較的、簡単に見つけられた。

笠山子午線標

天測点を捜すのはそれほど難しくはないが、子午線標は最小時間で見つけないと現地で不審者に間違えられると大変だ。「笠山子午線標」はN氏がA氏から地図をもらって見に行った、という少年探偵団の書出しレベルの情報しかなかったが、ネット社会のありがたいところで、N氏との接触到成功し、ほぼピンポイントでたどり着くことができた。

2月24日(土)

大文字山(465m)

大文字山は死者の霊を西方浄土へ送る「五山送り火」が行われる著名な山である。ここに菱形基線標があることを知り、早速登ってみた。

時は40年ほど前、もっぱら地震予知のために、地表面の水平方向のずれを観測すべく全国16か所に「菱形基線」が組まれた。菱形の交点の四隅に「菱型基線標」が設置され、それぞれ4点



大文字山菱形基線標(天測点に似ている)

あるから、菱形基線標は合計64点となる。九州には宮崎県のみにある。菱形基線標のある山で登山の対象になるのは、大文字山や千葉の鋸山など、わずかなようだ。

大文字山は宏大な境内の南禅寺から登り、銀閣寺横に下山する。琵琶湖疎水や火床など、見所の多い山だ。

逢坂山(325m)

逢坂山は百人一首に「名にしおはば逢坂山のさねかつら・・・」など3首も採用された和歌の故地であるが、ここにも菱型基線標があるので登ることにした。

大文字山や逢坂山のような文化・文芸の故地で、当時最先端の測量が行われたのは、誠に感慨深いものがある。しばし国土地理院先人の苦勞をしのぶ。

2月25日(日)

竜王山(605m)

辰年狙いで滋賀県の竜王山(金勝(こんぜ)アルプス)に登る。非常に見所の多い山だが省略。

思ったより、早く下山できたので、有名な長谷寺に参拝。殊に女性に人気の高いお寺だが、ひねくれ爺さんが見ても、素晴らしいと思う。門前町には温泉旅館があり、長谷寺参拝のあとで温泉というぜいたくな時を過ごした。

2月26日(月)

龍王山(585m)

これも、辰年狙いだ、大和盆地の死者の霊が集まるといふ重要な霊山である。この山中には600基以上もの古墳があると言われ、登山道の周囲は古墳だらけである。

下山後、数十年ぶりに「山野辺の路」を歩いて三輪山に向かう。日本最初のハイウェイと言われる「山野辺の路」だが、登山抜きでゆっくり歩きたい気もする。

三輪山(467m)

大物主神を祀るわが国で最も重要な霊山の一つである。以前は、禁足地であったが、最近、登れるようになったという。

古事記では、大国主の前に大物主が顕れ、三輪山に大物主を祀ることにより出雲の国がますます栄えたとの記述があるが、三輪神社の解説では、大国主=大物主と読める説明になっており、話が食い違っている。大国主の権威が高まる中(ある

いは高めるため)で、大物主と同一化されたなどと解釈すれば矛盾はないかもしれない(個人の妄想)。

三輪山に登るには、受付時間があるなど、制約が多いので、情報収集の上、登る必要がある。頂上には神社が祀られ、神の臨在を疑いようもない雰囲気がある。入山者は極めて多い。

(同行:佐藤美和子(会友))



京都菱形基線(追分が逢坂山)

私の無名山ガイドブック (N092)
草本(489.0m)・山の神(594.7m)
・マキノオ(749.3m)
 飯田勝之(10912)

今回も中津市山国町、奥耶馬溪の三角点山頂へのルートを紹介である。

草本・489.0m

所小野山から北東に延びる稜線が山国川に落ち込む直前の最後のピークで、探検しがいのある峰である。小さな平らなピークで赤松の点在する中にネジキ、アラカシ、リョウブ、ソヨゴ、アセビなどの広葉樹の灌木がたくさん見られる。

草本の国道496号から対岸に渡り、草本鉾山跡入口から入り、変電所横を通って奥にいくと、川を渡渉して車道が砂防ダム下まで続く。その砂防ダム手前の右岸から東の急斜面に送電線「女子畑溝部線」の巡視路の標識がある。巡視路は判然としないので、スギ林の中の急斜面を直登するとよい。杉林の急斜面をやや右にトラバースぎみに登ると露岩の多い小稜線の登りとなり、急斜面の

直登60分で山頂に至ることができる。眼下に山国川と草本の集落が睥睨できる。

砂防ダム下→60分→三角点山頂

山の神・594.7m

所小野山から北東に延びる稜線が高度を下げていき、600mを切ったあとの、稜線上の最初の小さな盛り上がりの上で、周りはほとんどスギの植林地で、露岩の多いこの小ピークの頂上付近だけ広葉灌木が見られる。アカマツ、サクラ、ネジキ、アラカシ、リョウブ、ソヨゴ、アセビ、ミツバツツジなどが見られる。

国道496号の灰土から対岸に渡り所小野に向かって入り、集落の中程にある三叉路から右に、所小野権現社へ向かって車道を上る。三叉路から800mほどで権現社への分岐を左に分ける大将陣山の登山口へのみちである。。右に行くと、600m弱で林道終点に至る。終点から北東に向かってすぎ林の中に入り、わずかに上りぎみにほぼ水平に北東にトラバースしていくと数分で稜線鞍部に達する。この鞍部から東に登っていくと5分足らずでピークに至る。露岩の多い山頂部の大きな岩に埋め込まれた4等三角点の金属標がある。

林道終点→15分→三角点山頂

マキノオ・749.3m

大将陣山から主稜線が二つに分派する稜線の、北の稜線がさらに二つに分派して高度を下げていく小稜線にある、けっこう登りがいのある小ピークである。

国道496号の灰土から対岸に渡り所小野に向かって入り、集落の入り口にある三叉路を左に上



り、300m先の三叉路を左に上る。300mほど上ると道が荒れてくるので歩くがよい。10分ほど登ると砂防ダムが二つあり、ここまで小型RV車なら来られよう。そこからさらに沢を登って二つの砂防ダムを超えてその谷をぐんぐん登りつめると大将陣山から分派した稜線の小鞍部に達する。この小鞍部から左に稜線に登りつめると露岩の小ピークで、ここも4等三角点の金属標が岩に埋め込まれている。

車止→10分→砂防ダム→30分→三角点山頂

地形図：英彦山・大行司・耶馬溪西部・裏耶馬溪

『ある問い合わせ』

(昭和33年の山岳遭難)

安東桂三(9193)

本年3月8日、日本山岳会本部事務局の豊泉さんよりある問い合わせがあった。それは昭和33年8月に九重山で遭難死された菊池清次(18歳)さんの遺族が、どこで遭難したのかを知りたいということで、日本山岳会本部に相談した。本部の図書室などで調べたが手がかりがないので、東九州支部に依頼が回ってきたのだった。

遭難事故は現地に問い合わせすれば、何か手がかりがあると思い、法華院温泉山荘の弘蔵岳久さんをお願いした。弘蔵さんは大分県山岳遭難対策協議会玖珠分隊の分隊長であり、九重連山の主なので、何か手がかりがつかめると依頼したのだった。

数日後に弘蔵さんより、竹田市の久住支所の資料室に当時の新聞記事があると、PDFにて新聞(5紙)の記事の送信を受けた。早速本部へ送りその資料は遺族へ送られた。

依頼主は清次さんの弟さんの子供であり、今年の夏には現地に行き、父(清次さんの弟)の願いを叶えてあげられ、また法華院温泉山荘の弘蔵さんに感謝の気持ちを伝えるつもりと感謝のメールをいただいた。

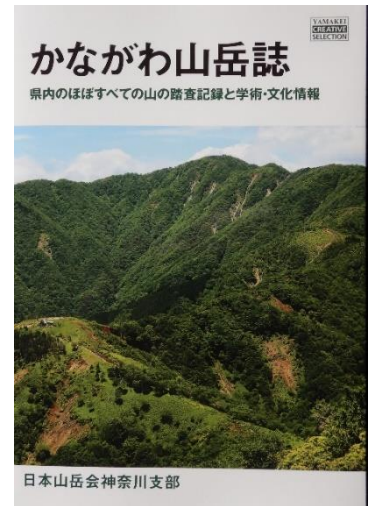
また加藤英彦顧問からも地元の郷土史家小野喜美男(故人)が九重山の遭難史をまとめていたことを教えていただき、また浅野聡一会員も遭難事故を何件か調べているとアドバイスをいただいた。

昭和33年頃と言えば、登山ブームの真っただ中で、現在の比でないくらいの登山者が山にあふれている状況だった。坊ヶツルには大分県警久住署法華院臨時派出所が設置されるほどで、この遭難事故が起こった同日、中学生2名の迷子も起こっていた。

66年も経っても、遺族にとっては忘れることが出来ず、それが明らかになったのは良いことと思う。インターネットなどの情報手段がある世の中になっても、それは万能でなく、人の手や繋がりがこの遭難の詳細を解決することとなった。

出版した。主要一般書店や、Amazon、楽天ブックスで購入出来る。定価 2200円。

山岳誌という「誌」の意味する、山の成立、気象、植物、動物、宗教、名称なども書かれ、ガイド本にとどまらず、神奈川の山のことかすべてわかる名著と思う。(安東桂三 9193)



日本山岳会神奈川支部



図書紹介

『かながわ山岳誌』(日本山岳会神奈川支部)
 日本山岳会神奈川支部は、2016年3月19日、日本山岳会の33番目の支部として、設立した。現在では、一番新しい支部で、活気にあふれている。創立記念として「かながわ山岳誌プロジェクト」を立ち上げ、5年による調査の後、本年2月25日

お知らせコーナー

支部からの報告(会務報告)

■支部会議開催報告

- 第5回役員会 11月6日(月)
 大分市 西部公民館(ルームと兼ねる)
 1.会員のスキルアップについて
 2.登山教室(実践講座)サポート体制について
 3.本部ユースクライミング参加についてその他
- 第6回役員会 1月29日(月)
 大分市西部公民館(ルームと兼ねる)
 1.東九州支部 令和5年度活動報告について
 2.各部署からの次年度事業計画の報告
 3.会員未納者への対応について.その他
- 第7回役員会 3月1日(金)
 大分市西部公民館(ルームと兼ねる)
 1.令和6年度事業計画についてについて
 2.定期総会各種議案作成について.その他

・支部ルーム開催状況

- 2月2日(金) 大分市西部公民館(6名)
- 3月1日(金) 大分市西部公民館(6名)
- 4月5日(金) 大分市西部公民館

・支部ルーム開催予定(18:30~)

- 5月10日(金) 大分市西部公民館
- 6月7日(金) 大分市西部公民館
- 7月5日(金) 大分市西部公民館

第11回登山教室開催のお知らせ

- ◆受講料 6,000円 ただし、研修に要する旅費、宿泊費等の実費は、参加者負担とする。山岳保険料は、本会が負担する。
 - ◆実施期間 令和6年5月から令和7年1月まで
 - ◆定員 30程度
 - ◆募集期間 4月15日(月)から5月7日(火)まで
ただし、定員に達したときは、募集を中止する。
 - ◆研修の日程・内容等
 - ▼第1回講座 5月16日(木) 座学研修
ホルトホール 会議室
 - ▼第2回講座 5月26日(日) 獺師岳・合頭山
山行 花の山を楽しむ。
 - ▼第3回講座 6月日程未定
救急法講座(中央消防署委託)
- 山好きの知人友人などに受講を紹介してください

スズタケの枯死とシカの食害状況調査

大分県生物談話会と共同で実施する

実施日 6月1日(土)及び10月5日(土)

実施場所 祖母・傾山系本谷山西の稜線

注) 調査方法、集合場所等は、検討中。

決定次第メールでお知らせします。

初心者向け登山講習会

日本山岳会 HP において案内、初心者向け登山講習会を約1年間行っており、座学と実地、実地には参加しにくいですが、座学(ZOOM)は自宅でも出来ます。是非ご活用下さい。

(詳しくは、JACHP を覗いてください)

月例山行のご案内

令和6年度の月例山行のテーマ

「レベルアップをめざそう」「富士山に登ろう」

5月：鶴見岳一気登山

実施日：5月12日(日)

所要時間：7時間 距離：15km

海拔0mの別府スパビーチから1375mの鶴見岳山頂を目指す。

申込先：笠井美世 mmukasai@nifty.com

申込み切：4月30日(火)

6月：傾山

実施日：6月16日(日)

所要時間：9時間30分 距離：10.5km

上畑～三ツ尾～傾山～九折越～上畑

申込先：中野稔 zermatt1111nm@gmail.com

申込み切：5月31日

7月：富士山

実施日：7月26日(金)～28日(日)

26日 大分発～富士宮～五合目雲海荘(泊)

27日 五合目雲海荘～九合目万年雪山荘(泊)

28日 下山～大分着

申込先：中野稔 zermatt1111nm@gmsil.com

申込み切：1回目6月3日、2回目6月30日

8月：安全を祈る集い(久住山)

実施日：8月4日(日) 担当：阿南

リーダー育成研修事業

1. アップスキリング山登り

(正しい山登りを目指す)

3月29日(金) 戸塚山、270mピーク、
広内地区の低山 1/25000 図 鶴崎

4月21日(日) 霊山の南山麓 1/25000 図 野津原

5月18日(土) 西叡山東山麓 1/25000 図 豊後高田市
霊山、西叡山は、一般ハイキング装備、ヘルメット、スリング、カラビナ 必携。

2. アップスキリング沢登り

(沢登りを初級から学ぶ)

5月11日(土) 麗谷(山移川支流)

6月5日(水) 鳴子川(玖珠川、筑後川の源流)

7月6日(土) 奥岳川(大野川支流)

初級の沢から学び、中級の沢登りへ結びつける。

アップスキリング雪山(雪山を初級から学ぶ)

詳細は、秋に、お知らせ

参加申込先 keizoando@xa3.so-net.ne.jp

あるいは 090-5727-9472 安東

シニアトレッキング

第一回 彦岳(639.4m) 6月2日(日)

集合 彦岳トンネル口の彦岳登山口駐車場 9時

申し込み先 下川智子

hukus@yahoo.co.jp 携帯電話 090-9076-3991

締め切り 5月20日(月)

第二回 花牟礼山(1170.3m) 9月29日(日)

第三回 鎮南山(536.4m) 7年3月9日(日)

会員の移動、新人会員の紹介

- ・準会員 寺道和代 会員番号 A-0599
- ・会友 児島淳子 会友番号 288
- ・会友 米田 寛 会友番号 289

- ・会友 河野浩美 会友番号 290
- ・会友 荒巻太介 会友番号 291
- ・会友 濱田翔吾 会友番号 292
- ・会友 松永建比古 会友番号 293
- ・会友 野底 功 会友番号 294
- ・会友 野底奈浦子 会友番号 295
- ・会友 宮川和彦 会友番号 296
- ・会友 広瀬健一郎 会友番号 297

以上、11名の方々です。宜しくお願ひします

第1回 支部役員会を下記の通り開催いたしますので役員の方はご参集下さい。

日時・令和6年5月10日(金) 18:30
(大分市西部公民館)

議題・・・①令和6年度役員体制について
②令和6年度事業計画について

会費納入のお願い

支部会費は、支部規約で6月末が納入期限となっています。未納の方は早めの納入をお願いします。支部は皆さんの協力で成り立っております。お納め頂くよう宜しくお願ひ致します。

後記

- ・春の山歩きの私の最大の楽しみは山菜採りだ。ワラビ、ゼンマイ、フキノトウ、カンゾウ、モミジガサ、ウド、タラの芽・・・、そんな中、何といても絶品はコシアブラとハリギリ、その仲間のタカノツメやヤマウコギも良い。
- ・一緒に歩いている人に、ハナイカザやマユミ・サルトリイバラ・ヤブガラシなどの新芽、ツバキやフジの花のつぼみを「これもうまいよ」と言ったら「えっ、こんな木の葉や蕾が食べられるの?」と驚く。でも癖がなくて春を味わるのだ。

- ・極めつけはクサギやイラクサ、果てはヤマウルシ・・・、クサギの新芽はゆでこぼして酢味噌で食べたり、肉などに煮つけると美味しい。刺さると痛いイラクサの新芽も手袋で摘んで天ぷらやゆでると仲間のアオミズのように淡白の味だ。
 - ・食べたことがないが、ヤマウルシも食べられるという。しかし、春のウルシは活発だからかかぶれが怖い。この若芽を手袋で採って湯がくと毒性が消えて、結構美味だというが、筆者はまだこれには挑戦していない。
 - ・秋のキノコも同じだが、安全と分かるものしか採らないことだが、その安全を知るのも楽しみだ。山菜はキノコほどの危険は伴わないが、美味しいニリンソウにそっくりなトリカブト、見た目には新芽がいかにも美味しそうだけど、毒のあるバイケイソウなど注意が必要な植物は多い。
 - ・東北のある老母と息子が山にキノコ採りに行って行方不明になり、一週間ほどして無事で見つかった。生き残ったのは、山で見つけたアオミズを食べながらしのいだからだというが、アオミズがさほど癖がなくて、生でも食べられるのを知っていたのは老母の方だった。
- (K・I)

公益社団法人日本山岳会東九州支部
東九州支部報 第105号
 2024年(令和6年)4月25日発行
 発行者 安東桂三
 編集者 飯田勝之
 発行所 事務局
 〒879-1113 大分市中判田 15-55 阿南方
 TEL・FAX 097-797-7120
 E-mail beca5844@oct-net.ne.jp



山溪
 西日本最大級の品揃え! since 1968 登山・キャンプ専門店 大分市生石1-3-1
 TEL 537-3333 FAX 537-3388
 ●西大分「交番」前高輪団地入り口
 ●JR西大分駅より歩いて6分
 ●10時~19時30分 ●火曜定休日

1968年創業の**山溪**があなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の**110番**開設中!
 靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。